

# 第 12 回（2022 年度）定時支部大会資料

2022 年 6 月 1 日（水）

日本原子力学会東北支部

## 議事

### (イ) 第1号議案

- (1) 2021年度事業報告
- (2) 2021年度収支決算報告

### (ロ) 第2号議案

- (1) 2022年度事業計画(案)
- (2) 2022年度収支予算(案)

### (ハ) 第3号議案

- (1) 2022年度支部幹事の選出(案)

### (ニ) 2021年度支部賞表彰式

### (ホ) その他

- (1) 2025年度以降の年会、大会の開催巡回について

(1) 2021年度事業報告

2021年度第11回定時支部大会

日 時：2021年5月31日(月) 13:30~14:20(支部大会)  
14:30~16:00(特別講演)

開催形式：Zoomによるオンライン形式

1. 定時支部大会 13:30~14:20

議事

- (イ) 第1号議案 (1) 2020年度事業報告  
(2) 2020年度収支決算報告
- (ロ) 第2号議案 (1) 2021年度事業計画(案)  
(2) 2021年度収支予算(案)
- (ハ) 第3号議案 (1) 2020年度支部幹事の選出(案)
- (二) 支部賞(2020年度)表彰式
- (ホ) その他

2. 特別講演 14:30~16:00

- (1) 「東北電力女川原子力発電所2号機における安全対策の実施状況」  
東北電力株式会社 原子力本部 原子力部(原子力技術)課長  
佐藤 大輔 氏
- (2) 「日本原燃再処理工場稼働に向けて」  
日本原燃株式会社 技術本部技術管理部長 守屋 登康 氏

主催、共催および後援のシンポジウム・講演会・セミナー

※2021年度においても、2020年3月以降、世界規模で拡大を続ける新型コロナウイルス感染症の影響により、学会の行事も様々中止となった。東北支部の関連(主催、共催、後援)行事としては以下が延期または中止となった。

- ・シンポジウム(主催)：第14回東北原子力シンポジウム

2021年10月末頃に、六ヶ所村文化交流プラザ・スロニーにて開催を予定。

- ・フォーラム(後援)：第16回量子エネルギー工学フォーラム

2021年8月末頃に、六ヶ所村文化交流プラザ・スロニーにて開催を予定。

- ・セミナー（後援）：六ヶ所・核燃料サイクルセミナー

2021年8月末頃に、六ヶ所村文化交流プラザ・スロニーにて開催を予定。

## 第45回研究交流会

日時：2022年1月13日（木） 9:30-17:15

開催方法：オンライン（Zoomによる）

主催：日本原子力学会東北支部

口頭発表：6件／ポスター発表：5件

特別講演 「2020年度東北支部功績賞受賞記念講演」

- 東北エネルギー懇談会における次世代層へのエネルギー・放射線教育の取り組みについて

東北エネルギー懇談会 専務理事  
相澤 敏也 氏

特別講演 「第12回南東北原子力シンポジウム」（日本保全学会 東北・北海道支部共催）

- 配管減肉のモニタリングと予測に基づく配管システムのリスク管理

東北大学流体科学研究所 教授  
内一 哲哉 氏

- 1F廃炉・環境回復にかかわる原子力機構の研究開発

（国研）日本原子力研究開発機構 福島研究開発部門 福島研究開発拠点 副所長  
（兼）福島研究開発部門 福島研究開発拠点 廃炉環境国際共同研究センター  
センター長代理

深堀 智生 氏

## 支部幹事会

### 1) 2021 年度第 1 回支部幹事会

- ・日時：2021 年 5 月 31 日(月) 16：00～16：10
- ・開催方法：オンライン (Zoom による)
- ・議題：
  - (1) 今年度支部行事について
    - ・東北原子力シンポジウム
    - ・南東北原子力シンポジウム
    - ・支部研究交流会
    - ・AESJ 東北カフェ (オンライン)
  - (2) 支部オープンスクールについて
    - ・オープンスクール小委員会予算を申請中  
予算が認められれば上記予算で実施 (一昨年までと同様)
    - ・交付決定までは支部予算にて実施
  - (3) その他  
次回開催日時について

### 2) 2021 年度第 2 回支部幹事会

- ・日時：2021 年 7 月 9 日(金) 13：30～15：00
  - ・開催方法：オンライン (Zoom による)
  - ・議題：
    - (1) 支部予算について
      - ・東北支部オープンスクール予算について
- 状況説明
- 一昨年度まで、支部オープンスクールは電事連からの受託により、支部予算とは別途実施しておりましたが、昨年度は、電事連との交渉が行われておりませんでしたので、支部予算にて実施いたしました。今年度は電事連との交渉が進められている状況ではありますが、学会本部では、予算が「電事連から」である事を明示する必要について議論されております。東北支部の場合、オープンスクール対象者 (学校) によってはスポンサーに敏感な場合があります、当面は支部予算にて実施を行い、電事連との交渉が成立した後も、状況を丁寧に精査して実施したいと考えております。今回は電事連予算が成立した後も状況によって支部予算を用いてオープンスクールを行うことについて議論させていただきたく思います。
- (2) 今後の活動、準備状況について
    - ・南東北原子力シンポジウム

- ・支部研究交流会
- ・AESJ 東北カフェ（オンライン）
- (3) 【報告事項】2020年度支部賞の授与について
- (4) 幹事および学会担当者交代
- (5) その他
  - ・教育会員勧誘について

### 3) 2021年度第3回支部幹事会

- ・日時：2021年8月27日(金) 13:30～15:00
- ・開催方法：オンライン（Zoomによる）
- ・議題：
  - (1) 東北支部オープンスクール実施状況について  
第1回～4回実施
  - (2) 支部予算について
  - (3) 今後の活動予定について
    - ・支部研究交流会  
確認事項：  
特別講演（南東北原子力シンポジウムセッション、2020支部功績賞講演）  
協議事項：開催日について
    - ・AESJ 東北カフェ（オンライン）  
東北電力、日本原燃、電源開発、日立、東芝他  
開催時期：年内
  - (4) その他

### 4) 2021年度第4回支部幹事会

- ・日時：2021年10月11日(月) 13:30～15:00
- ・開催方法：オンライン（Zoomによる）
- ・議題：
  - (1) 東北支部活動報告について  
状況説明  
9/22開催の支部協議委員会にて支部活動の状況と予定を報告。
  - (2) 原子力人材育成ネットワークアンケート回答について  
状況説明  
上記支部協議委員会で各支部に依頼がなされ、すでに回答済。
  - (3) 今後の活動予定について
    - ・支部研究交流会  
確認事項：  
開催日 2022年1月13日（木）

開催形式 オンライン

特別講演

南東北原子力シンポジウムセッション →JAEA1件、保全学会1件

2020 支部功績賞講演 →依頼済

協議事項：

講演募集について

- ・ AESJ 東北カフェ（オンライン）

東北電力、日本原燃、電源開発、日立、東芝他（全4回）

開催決定：

日立GEニュークリア・エナジー株式会社 11/26 17:30～

講師：今野 隆博氏

（新規制基準対応推進センター、プロジェクトマネージャー）

残り3回の開催時期調整中

(4) その他

#### 5) 2021 年度第 5 回支部幹事会

・ 日時：2021 年 11 月 29 日(月) 10：30～12：00

・ 開催方法：オンライン（Zoom による）

・ 議題：

- (1) 東北支部次年度予算について

状況説明：

すべての行事が対面実施可能である事を前提に作成し、提出済。

- (2) 原子力人材育成ネットワークとの連携

状況説明：

以前、支部協議委員会で各支部にアンケート依頼があり、

窓口を藤原とし、対応した。今回、東北大教員リストの登録依頼があり、

東北大量子エネルギー工学専攻に取り次いだ。

- (3) 支部活動予定と準備状況について

- ・ 支部研究交流会

確認事項：

開催日 2022 年 1 月 13 日（木）

開催形式 オンライン

講演申し込み状況（11/30 締め切り）

特別講演準備状況

南東北原子力シンポジウムセッション

→JAEA1件、保全学会1件 依頼済

2020 支部功績賞講演 →依頼済

確認事項：

講演申し込み状況（11/30 締め切り）：必要であればリマインドする。

予稿集作成（12/24 提出締め切り）

・AESJ 東北カフェ（オンライン）

開催決定：

①日立GEニュークリア・エナジー株式会社 11/26 17:30～

講師：今野 隆博氏

（新規制基準対応推進センター、プロジェクトマネージャー）

②東北電力株式会社、東北インフォメーション・システムズ株式会社

12/10 17:30～

講師：菊池 孝史氏

（東北電力 原子力本部原子力部（原子力技術））

講師：高杉 両平氏

（東北インフォメーション・システムズ 開発運用本部 システム開発1部 システム開発推進課）

③日本原燃株式会社、東北電力株式会社、電源開発株式会社

12/17 17:30～

講師：秋永 祐隆氏

（日本原燃 技術本部 エンジニアリングセンター プロジェクト部 新増設プロジェクトグループ）

講師：鈴木 寛久氏

（東北電力 東通原子力発電所 放射線管理課）

講師：田上 友基氏

（電源開発 大間現地本部 大間原子力建設所 技術グループ）

④東芝エネルギーシステムズ株式会社 12/20 17:30～

講師：阿部 友紀氏

（原子力機械システム設計部 担当）

(4) その他

6) 2021 年度第 6 回支部幹事会

・日時：2022 年 1 月 19 日(水) 10:30～12:00

・開催方法：オンライン（Zoom による）

・議題：

(1) フェロー支部推薦について

本年度支部からの推薦者はなし。

次年度改選予定幹事の確認

(2) 研究交流会実施報告

状況説明：

1/13（木）に第 45 回研究交流会がオンラインにて開催された。発表件数



は年々減少傾向にあるため、今後の募集等に工夫が必要である。今年度は南東北原子力シンポジウムセッションも含め、特別講演が3件予定されていたこともあり、常時30名以上の聴講者に参加いただき、多いときには50名程度の方々のご参集をいただく事が出来た。

- (3) 支部賞選定について
  - ・支部HP、AESJ-NEWSで募集
  - ・奨励賞は研究交流会若手発表者も候補
- (4) 次年度支部幹事候補について
- (5) 支部オープンスクール実施状況について
- (6) その他

#### 7) 2021年度第7回支部幹事会

- ・日時：2022年3月14日(月) 10:30~12:00
- ・開催方法：オンライン (Zoomによる)
- ・議題：

- (1) 会友制度の導入と会友募集について

状況説明：

原子力学会では新たに会友制度が導入となりました。会友制度の趣旨説明や募集協力の依頼が来ております。

- (2) 2021年度支部大会開催予定について

- ・次年度の支部大会は第12回。
  - ①開催時期や開催形式の検討、
  - ②併催の特別講演内容、
  - ③準備スケジュール確認等

- (3) 2021年度支部賞決定について

- ・今年度支部賞の選考結果について選定委員よりご報告いただき、内容を確認いただきます。

- (4) 次年度支部幹事改選予定者の確認

- (5) その他

- ・原子力学会理事候補者募集について

\*その他の案件についてはメールベースでの審議を行った。

### 2021年度 東北支部見学会

日本原子力学会東北支部では、第14回東北原子力シンポジウムの併催行事として、支部見学会の実施を予定していたが、シンポジウムの延期に伴い、見学会も延期とした。

## 2021AESJ 東北カフェ（原子力産業の魅力を伝える対話フォーラム）

### 第1回

日時：2021年11月26日（金） 17：30～19：00

開催方法：オンライン（Zoomによる）

講師：日立GEニュークリア・エナジー株式会社 新規制基準対応推進センター  
プロジェクトマネージャー 今野 隆博氏

### 第2回

日時：2021年12月10日（金） 17：30～19：00

開催方法：オンライン（Zoomによる）

講師（東北電力株式会社）：原子力本部原子力部（原子力技術） 菊池 孝史氏

講師（東北インフォメーション・システムズ株式会社）：

開発運用本部 システム開発1部 システム開発推進課 高杉 両平氏

### 第3回

日時：2021年12月17日（金） 17：30～19：00

開催方法：オンライン（Zoomによる）

講師（日本原燃株式会社）：技術本部 エンジニアリングセンター プロジェクト部  
新增設プロジェクトグループ 秋永 祐隆氏

講師（東北電力株式会社）：東通原子力発電所 放射線管理課 鈴木 寛久氏

講師（電源開発株式会社）：大間現地本部 大間原子力建設所 技術グループ  
田上 友基氏

### 第4回

日時：2021年12月20日（月） 17：30～19：00

開催方法：オンライン（Zoomによる）

講師：東芝エネルギーシステムズ株式会社 原子力機械システム設計部 担当  
阿部 友紀氏

## 2021年度 東北支部オープンスクール

### 第1回（支部予算）

日時：2021年6月8日

対象：郡山市立西田学園義務教育学校 小学6年生27名

実施方法および内容：ウェブ会議システム（ZOOM）を用いた遠隔出前授業

- ① 講義「日本のエネルギー事情」
- ② 実験「太陽電池に関連する実験」

## 第2回（電事連予算）

日時：2021年8月3日

対象：浦和第一女子高等学校 SSH2年生 15名

実施方法：ウェブ会議システム（ZOOM）を用いた遠隔出前授業

- ① 講義「世界のエネルギー事情」
- ② 講義「放射線の基礎」
- ③ 実験「原子核崩壊模擬実験」
- ④ 実験「距離の逆二乗則実験」

## 第3回（電事連予算）

日時：2021年8月10日

対象：青森県六ヶ所村中学生（キャンパスツアーin 六ヶ所）8名（引率含む）

実施方法：現地対面とウェブ会議システム（ZOOM）とを併用したハイブリッド形式授業

対面実施場所：青森県量子科学センター

- ① 東北大学工学研究科における研究活動紹介。
- ② 担当大学院生の研究内容についての紹介を行い、中学生からの疑問等に答える交流授業実施。
- ③ 講義「放射線の基礎全般および加速器の原理」
- ④ 量子科学センター施設見学。
- ⑤ 加速器による PIXE 分析実験体験

## 第4回（電事連予算）

日時：2021年9月2日

対象：青森県立六ヶ所高校 1年生 34名、2年生 35名

実施方法：ウェブ会議システム（ZOOM）を用いた遠隔出前授業

- ① 第一部 2年生対象 エネルギーに関する講義、太陽電池実験
- ② 第二部 1年生対象 放射線の基礎に関する講義、環境放射線測定実験

## 第5回（支部予算）

日時：2021年12月1日

対象：新潟県上越市立三和中学校 2年生 42名

実施方法：ウェブ会議システム（ZOOM）を用いた遠隔出前授業

- ① 講義「放射線の基礎」
- ② 実験「霧箱による放射線飛跡観察実験」および「環境放射線測定実験」

## 第6回

対象：（中止）宮城県東松島市立矢本第一中学校

状況：

例年実施している学校ではあるがコロナウイルス感染症収束時期だったため、修学旅行等の対面行事復活に伴い、中止となった。

## 第7回（支部予算）

日時：2021年12月6、7日

対象：福島県立福島明成高等学校 3年生 224名

実施方法：対面形式（会場：福島明成高等学校）

- ① 講義「放射線の基礎」
- ② 実験「環境放射線測定実験」

## 第8回（支部予算）

日時：2022年1月6日

対象：青森県立弘前南高等学校 1年生 20名

実施方法：対面形式（会場：弘前南高等学校）

- ① 講義「放射線の基礎」
- ② 実験「霧箱の放射線観察」、「放射線測定器体験」
- ③ 実験「放射線の物質による遮蔽実験」

## 第9回（支部予算）

日時：2022年1月28日

対象：北海道教育大学附属函館小学校 6年生 65名

実施方法：ウェブ会議システム（ZOOM）を用いた遠隔出前授業

- ① 講義「放射線の基礎」
- ② 実験「霧箱による放射線飛跡観察実験」および「環境放射線測定実験」

## 第10回（電事連予算）

日時：2022年3月16日

対象：北海道立函館工業高校電気情報工学科 1年生 40名

実施方法：ウェブ会議システム（ZOOM）を用いた遠隔出前授業

- ① 講義「日本のエネルギー事情」
- ② 実験「太陽電池実験」

## 第11回（電事連予算）

日時：2022年2月24日

対象：岩手県立一関工業高校電気電子科 1年生 40名

実施方法：ウェブ会議システム（ZOOM）を用いた遠隔出前授業

- ① 講義「放射線の基礎」「日本のエネルギー事情」
- ② 実験「放射線距離の逆二乗則実験」

## 第12回

対象：（中止）宮城県多賀城市立多賀城中学校

状況：

昨年度も実施した学校ではあるがコロナウイルス感染症収束時期に、対面行事復活のため中止となった。

## 2021 年度日本原子力学会東北支部功績賞・奨励賞

2021 年度の支部功績賞・奨励賞について、受賞者および授賞理由は下記のとおりである。

### ○ 功績賞

件名： 放射線教育・リスクコミュニケーションによる長年にわたる社会貢献活動

受賞者名： 東北大学 大学院薬学研究科 吉田 浩子 殿

授賞理由：

吉田浩子殿は、東北大学大学院薬学研究科ラジオアイソトープ研究教育センターにおいて管理業務に携わる傍ら、線量評価法確立に関する研究・放射線教育、リスク・コミュニケーション活動に長年取り組まれている。

東日本大震災以降の代表的な学術活動としては、(1) 福島-宮城県境地域の子供を中心とする住民の被ばく線量測定・評価、(2) 個人被ばく線量と住家との関係、(3) 住家ない空間線量率提言のための遮蔽剤の開発、(4) 住民の被ばく線量低減方策の提言など、住民の暮らしに直結する活動に精力的に取り組まれている。更に、2016 年からは原子炉安全検査委員会と核燃料安全検査委員会の委員を、2018 年からは福島県大熊町の除染検証委員会の委員を担当されるなど、地元住民や国および地方自治体の関係においても重要な役割を果たされている。また、2016 年には米国・保健物理学会で、Dade Moeller 賞を受賞され、吉田浩子殿の活動は国際的にも評価されている。また、日本原子力学会においては、ダイバーシティ委員会委員長を務められるなど長年学会員として活動され、日本原子力学会フェローとなっておられる。

これら吉田浩子殿の学術活動や学会活動は東北支部功績賞として相応しいと認め、決定された。

○ 奨励賞（2件）

件名：石炭灰含有ヒ素およびセレンの溶出

-エージングおよびセメント混合による溶出特性の評価

受賞者名： 東北大学 大学院工学研究科 関 亜美 殿

授賞理由：

当研究により、産業副産物であるフライアッシュに含まれる環境有害物質（ヒ素およびセレン）の溶出に関して、フライアッシュにセメントを添加することで溶出量が顕著に低減することから、フライアッシュのセメント混和材の利用は有害物質の不溶化に際し、非常に効果的である事が明らかとなった。

本成果は、今後の更なる発展により、放射性廃棄物処分への応用が考えられ、産業副産物を有効利用した環境調和型の放射性廃棄物処分場実現が期待される。よって本奨励賞に相応しい内容であると決定された。

件名： Experimental Study of Porous Cooling System Characteristics with Different Heating Direction

受賞者名： 東北大学 大学院工学研究科 Wagner Romain 殿

授賞理由：

ヘリカル型核融合炉実現に向けて検討が進められている着脱可能な高温超電導磁石では、分割セグメント間に発生するジュール熱が問題となり、その除去のため、多孔質冷却システムの利用が検討されている。当研究では、加熱される方向によって受けるこの多孔質冷却システムの圧力損失と熱伝達性能に及ぼす影響について検討をおこなった。

本成果は、今後の更なる発展により、ヘリカル型核融合炉用高温超電導磁石のメンテナンス性向上に寄与し、炉全体の経済性向上にも大きく寄与する事が期待される。よって本奨励賞に相応しい内容であると決定された。

## (第1号議案(2))

## (2) 2021年度収支決算報告

(単位 円)

科 目	予算額	決算額	差引 (予算-決算)	備 考
【収入の部】				
支部活動費 支部活動費	933,000	144,287	788,713	
事業収入	380,000	0	380,000	
寄付金収入	0	0	0	
その他	380,000	0	380,000	
雑収入	0	0	0	
当期収入金 (A)	1,313,000	144,287	1,168,713	
前期繰越金 (B)	1,123,301	1,123,301	-	
収入合計 (C) = (A) + (B)	2,436,301	1,267,588	1,168,713	
【支出の部】				
会議費	308,000	68,801	239,199	
大会	281,000	68,801	212,199	大会案内はがき代、 印刷費
幹事会	27,000	0	27,000	
事業費	844,000	61,010	782,990	
研究交流会費	570,000	0	570,000	
講演会費	100,000	0	100,000	
見学会費	104,000	0	104,000	
支部賞	50,000	61,010	▲ 11,010	記念品
その他	20,000	0	20,000	
事務経費	161,000	14,476	146,524	
通信運搬費	104,000	14,476	89,524	オープンスクール用通信機器 類運搬費
事務費	4,000	0	4,000	
消耗品費	3,000	0	3,000	
その他	50,000	0	50,000	
予備費	0	0	0	
当期支出計 (D)	1,313,000	144,287	1,168,713	
当期収支差額 = (A) - (D)	0	0		
次期繰越金 (E) = (C) - (D)	1,123,301	1,123,301		
支出合計 = (D) + (E)	2,436,301	1,267,588		



## (第2号議案(1))

### (1) 2022年度事業計画(案)

#### 1. 第12回定時支部大会

日時：2022年6月1日(水) 13:30~14:20(支部大会)

14:30~16:00(特別講演)

開催形式：Zoomによるオンライン形式

##### 1. 定時支部大会 13:30~14:20

###### 議事

(イ) 第1号議案(1) 2021年度事業報告

(2) 2021年度収支決算報告

(ロ) 第2号議案(1) 2022年度事業計画(案)

(2) 2022年度収支予算(案)

(ハ) 第3号議案(1) 2022年度支部幹事の選出(案)

(ニ) 支部賞(2021年度)表彰式

(ホ) その他

##### 2. 特別講演 14:30~16:00

###### (1) 「長寿命廃棄物の核変換」

東北大学名誉教授(工学研究科) 岩崎 智彦氏

###### (2) 「原子力材料研究の40年」

東北大学名誉教授(工学研究科) 長谷川 晃氏

#### 2. 幹事会

・年6~7回程度、原則オンライン(状況によって対面併用)

#### 3. 第14回東北原子力シンポジウム(開催未定 青森県六ヶ所村)

#### 4. 支部見学会(開催未定 第14回東北原子力シンポジウムと併催)

#### 5. 第13回南東北原子力シンポジウム(開催未定 オンラインもしくは福島市)

#### 6. 第46回研究交流会(開催未定 オンラインもしくは東北大学)

#### 7. 講演会の開催(年2回程度)

#### 8. 「AESJ東北カフェ」開催(年4回、開催未定)

・電力やメーカーの若手職員と東北大学や八戸工業大学等の学生との対話会

・職場での仕事、やりがい、苦労(メーカー側)、

就職に向けての不安や今後の目標(学生側)等について膝をつき合わせた対話会

## 9. オープンスクールの開催

広報情報委員会オープンスクール小委員会東北支部予算で実施予定。ただし、当該予算の執行ができない場合には、2021年度と同様に支部予算で実施。

## 10. その他

## (第2号議案(2))

## (2) 2022年度収支予算(案)

(単位 円)

科 目	予算額	備 考
<b>【収入の部】</b>		
支部活動費 支部活動費	1,117,000	
事業収入	280,000	
寄付金収入	0	
その他	280,000	支部大会、研究交流会等の参加費見込み
雑収入	0	
当期収入金(A)	1,397,000	
前期繰越金(B)	1,123,301	
収入合計(C) = (A) + (B)	2,520,301	
<b>【支出の部】</b>		
会議費	380,000	
大会	350,000	大会案内、役員改選投票はがき代、懇親会費
幹事会	30,000	交通費
事業費	856,000	
研究交流会費	500,000	会場費、要旨集、ボード設置代等
講演会費	168,000	懇親会費
見学会費	104,000	バス代
支部賞	64,000	賞状、記念品
その他	20,000	謝金他
事務経費	161,000	
通信運搬費	104,000	通信機器、切手代等
事務費	4,000	
消耗品費	3,000	コピー代、封筒代
その他	50,000	ホームページ管理費
予備費	0	
当期支出計(D)	1,397,000	
当期収支差額 = (A) - (D)	0	
次期繰越金(E) = (C) - (D)	1,123,301	
支出合計 = (D) + (E)	2,520,301	

(註) 予算の科目間の流用を認める。

(1) 2022年度支部幹事の選出(案)

(社)日本原子力学会東北支部 2022年度新幹事候補者

(信任・不信任投票の対象となる方)

支部長	新堀雄一	東北大学大学院工学研究科 教授	改選
幹事	桐島陽	東北大学多元物質科学研究所 教授	新任
〃	志田原美保	東北大学大学院工学研究科 講師	改選
〃	藤原充啓	東北大学大学院工学研究科 助教	改選
〃	鷺谷忠博	日本原子力研究開発機構 福島研究開発部門 廃炉環境 国際共同研究センター 副センター長	新任
〃	阿部慎一	東北電力(株) 原子力本部原子力部副部長	新任
〃	石尾貴宏	日本原燃(株) 技術本部 技術管理部 課長	新任
〃	矢尾板一之	電源開発株式会社 大間原子力建設所 副所長	新任
〃	山内和昭	株式会社トインクス 開発運用本部 システム開発1部 シ ステム開発推進課 担当課長	新任

(留任のため、信任・不信任の対象にならない方)

副支部長	金澤定男	東北電力(株) 常務執行役員 原子力本部原子力部長	
幹事	高橋 信	東北大学大学院工学研究科 教授	
〃	鳥居建男	福島大学環境放射能研究所 特任教授	
〃	佐藤 学	八戸工業大学大学院工学研究科 教授	
〃	相澤直人	東北大学大学院工学研究科 助教	
〃	佐藤大輔	東北電力(株) 原子力本部原子力部(原子力技術) 課長	
〃	守屋登康	日本原燃(株) 技術本部技術管理部長	

## (1) 2025年度以降の年会、大会の開催巡回について

### 【学会本部部会等運営委員会から】

年会大会の開催巡回については2024年度分までの担当支部が決まっているが、状況の変化とともにいくつか問題点が出てきたため、現在、2025年度以降の開催循環について変更の検討を行っている。

論点としては以下の3点。

1. 各支部のポイントは各支部内の大学・研究機関の数および規模をもとに基礎ポイントを作り、これを区切りの良い数値に直して換算ポイントとしているが、この情報が古いいため、最新の情報を収集しポイントの修正を検討している。
2. 毎年、年度初めに、各支部に換算ポイントを割り当て、原則として蓄積ポイント数の多い支部に開催をお願いしていたが、この方法だと特定の支部の開催頻度が高くなり、不公平感が出てきていた。
3. コロナ禍で始めたオンライン年会大会に賛否両論あるものの、オンライン大会は準備が現地開催に比べて非常に簡単となって担当支部の負担が大幅に軽減される。またオンラインであれば旅費をお持ちでない一般会員やシニア会員、子育て・親族の介護中の会員の参加が容易となり、学会活動のダイバーシティ化の観点から、今後、年会大会の開催形態の一つとして固定化していくことが理事会内である程度コンセンサスが取れている。特に春の年会について、年度末の予算締め切り間際に行われるため学会事務局の負担が大変大きかったことと、年度末に現地開催を予定し、それがオンラインとなった場合、出張旅費等の執行に支障を来す可能性があることが認識されている。

そこで、2025年度以降の開催巡回は、

1. 春の年会をオンラインと固定して、8支部（北海道→東北→北関東→関東・甲越→中部→関西→中国・四国→九州）が順番に開催する。オンラインの特徴を生かして、海外の著名人の講演依頼や協定を結んでいる国外学協会メンバーの参加を認めるなどの企画を検討する。
2. 秋の大会はポイント制としてこれまでの方法で順番を決めるが、年会と連続しないように事務局が調整する。

とう方向で検討している。

→上記提案に関する東北支部としての意見を集約したい。